

ASD(自閉スペクトラム症) 生活環境研究会

事務局 増澤 高志 博士(工学)



ご挨拶 ASD生活環境研究会とは

- ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会と申します。
- 主に、ASDの方の使用される用具や環境に関わっての取り組みを行っております。
- 発達障害の一つである、自閉症については、カーナーやアスペルガーが発表してから75年余り。まだまだ不明のことも多くあり、この間にも知見等は変化してきています。
- 名称も、精神医学の世界では、診断名が、自閉症、広汎性発達障害、そして、ASD等と変化してきています。
- 日本の社会福祉の現場では、現在いずれも使われています。そのことが大きな問題であるとは考えておりませんが、当会としては、できるだけ、最新の知見を活かしたいとの思いから、現時点ではこの名前を使用しています。



- ASDという言葉には、まだ、耳なじみのない方もお見えかもしれません。
- ASD (Autism Spectrum Disorder) という言葉は、2013年、アメリカ精神医学会にて出版された診断基準(DSM-5)で提唱されて以降、精神医学の臨床で使われ始めたものです。
- また、Autism Spectrum Disorder の日本訳も、自閉スペクトラム症、自閉スペクトラム障害、自閉症スペクトラム症、等の訳があります。



ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会は

- ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会は、障害者パーテーション研究会(2000年4月)、及び、その後名称変更をした、生活環境支援研究会(2003年4月)の取り組み内容を引き継ぐ意図で結成致しました。



知的障害、発達障害の方にとっての用具

- ASDの方を含めた、発達障害の方や、知的障害の方は、生活の質、自立、自己実現、社会参加等の状態はさておき、障害の部分を支える用具を使用しなくても、生活ができないわけではありませんでした。
- そのため、他の障害の方の障害の部分を支えるものとしての福祉用具の歴史よりも浅いと言えます。
- しかし、他の障害の方と同様、その方の障害の部分に合った用具が適切に使われ、周りの理解があれば、自立や社会参加、自己実現の状態が大きく変わり、生活の質を大きく変える可能性があります。



ASDの障害特性

- また、障害の部分を支える用具は、障害特性、個々の状況、周りの支援と理解に大きくかわります。
- 障害特性についての知見は、ここ数十年で変化をしてきていますが、イギリスの精神科医のローナ・ウィングは、自閉症の特徴として、「人との相互交渉」「コミュニケーション」「想像力の発達」の3つを上げ、これらは、「三つ組み」ともいわれ、現在も紹介されています。
- また、最近では、次の様にまとめられることもあります。



1) コミュニケーションと相互交流の困難

- 言葉を相互的にやり取りしたり、関心や気持ちを共有することが難しい
- 視線・表情・ジェスチャーなどによる相互的なやりとりが難しい
- ごっこ遊びや見立て遊びが乏しく、友人関係の構築が困難

2) こだわりの強さと感覚への特異な反応

- 同一の行動を繰り返す・変化を嫌う
- 特定のものに強い関心を示す
- 特定の感覚に過敏(または鈍感)で、その感覚にこだわる



ASDの方が使用する用具に関わって

- また、この間、ASDの方に対応した用具は、様々に作られています。いくつかのカテゴリーに分けることができます（相互に関連していることもありますし、下記はあくまでも代表的なものです）。
- コミュニケーション
 - VOCA（音声表出コミュニケーションエイド）や、シンボル・絵文字等の使用、スマホやタブレットのアプリ等
- スケジュール・タイマー
 - 今何をするのか、次に何をするのか、等を、その人にわかりやすい様に提示したり、自らが選択し決めていく、それらにより、見通しを持ち、落ち着いて、今やるべきことができるようにするものです。
- 感覚過敏（聴覚過敏、視覚過敏、触覚過敏、味覚過敏、臭覚過敏・・・）への対応が必要なことがあります。
- 全てに関わりますが、視覚支援（耳からよりも目からの情報の方が、理解しやすいと言われていています）が多く使われます。



コミュニケーション・・・例えばVOCA

- 例えば、支援者が、当事者の方が必要であろう音声をあらかじめVOCAに録音し、必要な場面で、VOCAのスイッチを当事者の方自身で押すことにより、相手に理解してもらい、必要なことを返してもらおう、等、自分の思いを伝え、何らかの形で返してもらおう・・・等のやり取りを行うための補助具です。
- そのやり取りの積み重ねにより、コミュニケーションを理解することにつながる可能性があります。それには、用具だけではなく周りの理解が欠かせません。



コミュニケーションエイドの一つ、VOCA(音声表出コミュニケーションエイド)の例
右は多機能のもの
左は1メッセージのもの



スケジュール

- 今何をするのか、次に何をするのか、今日何をするのか、今週何をするのか。それは、いつまでなのか、いつからなのかを、その人にわかりやすい様に提示したり、自らが選択し、決めていきます。それらにより、見通しを持つことができるようにします。
- それを使いやすくする用具もいくつかあります。



携帯できる「スケジュール」の例



タイマー

- その人が使うことができるように導入は必要ですが、「時計」を理解することができなくとも、下の写真の様に目で見て「量」で理解をし、いつまでなのかを理解することにより、見通しを持つことができる可能性があります。そのことにより、時間を自分のものにすることができる可能性があります。



感覚過敏

- 感覚過敏(聴覚過敏、視覚過敏、触覚過敏、味覚過敏、臭覚過敏...)への対応が極めて重要な場合があります。
- 聴覚過敏等で、不快な音を遮断、軽減するために「イヤマフ」を使用することもあります。写真右は、電車に乗れなかった人が、イヤマフ使用により、電車に乗ることができるようになり、生活が大きく広がりました。
- また、ASDの方は、耳からより、目からの情報が入りやすいと言われ、そのことを利用して、「視覚支援」を行ったりしますが、不快な、不要な視覚情報も入りやすいことがあり、その事での混乱もあります。視覚情報を遮断するためのパーテーションや写真のメガネの様に、ツルの幅が広く、左右の視覚情報を一定遮断するもの等もあります。



他にも

- タブレットやスマホを使い、タイマーやスケジュール、コミュニケーション等にかかわるアプリを開発しておられるところもあり、人によっては有効に使っておられる方もお見えます。
- しかし、タブレットやスマホは多機能です。その多機能を使いこなせる人には好いのですが、多くの機能の中から自分に必要なアプリを選択することが難しい人には、使いこなせないこともあり、ここが大きな課題となることもあります。



まとめにかえて

- いわゆる福祉用具は、障害そのものを無くすわけではありませんが、それぞれの障害の部分を支え、補います。そのことにより、自立や社会参加、生活の質に変化をもたらします。
- ASDの方にとっても全く同様です。
- しかし、障害への理解と、用具使用への理解が欠かせません。
- また、まだまだASDの方の障害の部分を支える用具は必要ですし、新たな展開も期待します。
- 当事者も声を上げていく必要がまだまだありますが、様々な「シーズ」をお持ちの方のご理解、ご協力もよろしくお願いします。

